

腫瘍・診断病理学分野

A 欧文

A-a

1. Matsuda K, Miura S, Kurashige T, Suzuki K, Kondo H, Ihara M, Nakajima H, Masuzaki H, Nakashima M: Significance of p53-binding protein 1 nuclear foci in uterine cervical lesions: Endogenous DNA double strand breaks and genomic instability during carcinogenesis. *Histopathology* 59:441-451, 2011 (IF:3.569) *○
2. Ito M, Naruke Y, Mihara Y, So K, Miyashita T, Origuchi T, Nakashima M, Livolsi V: Thyroid papillary carcinoma with solid sclerosing change in IgG4-related sclerosing disease. *Pathol Int* 61(10):589-592, 2011 (IF:1.481) *
3. Naruke Y, Ito M, Mihara Y, Umezaki Y, Matsuya F, Hayashi M, Nakashima M, Khono S: De novo papillary renal cell carcinoma in an allograft kidney: Evidence of donor origin. *Pathol Int* 61(11):694-696, 2011 (IF:1.481) *
4. Stanojevic B, Dzodic R, Saenko V, Milovanovic Z, Pupic G, Zivkovic O, Markovic I, Djuricic I, Buta M, Dimitrijevic B, Rogounovitch T, Mitsutake N, Mine M, Shibata Y, Nakashima M, Yamashita S: Mutational and clinico-pathological analysis of papillary thyroid carcinoma in Serbia. *Endocr J* 58(5):381-393, 2011 (IF:1.952) *
5. Akilzhanova A, Meirmanov S, Zhunussova T, Nakashima M, Takamura N, Akanov Z, Masadykov A, Sandybaev M, Ramanulov E, Yamashita S, Sekine I: Mutational screening of the BRCA1 gene in sporadic breast cancer in Kazakhstan population. *Breast J* 17(3):328-330, 2011 (IF:1.425) *
6. Matsushima K, Isomoto H, Yamaguchi N, Inoue N, Machida H, Nakayama T, Hayashi T, Kunizaki M, Hidaka S, Nagayasu T, Nakashima M, Ujifuku K, Mitsutake N, Ohtsuru A, Yamashita S, Korpala M, Kang Y, Gregory PA, Goodall GJ, Kohno S, Nakao K: MiRNA-205 modulates cellular invasion and migration via regulating zinc finger E-box binding homeobox 2 expression in esophageal squamous cell carcinoma cells. *J Transl Med* 9:30, 2011 (IF:3.508) *
7. Sosonkina N, Nakashima M, Ohta T, Niikawa N, Starenki D: Down-regulation of ABCC11 protein (MRP8) in human breast cancer. *Exp Oncol* 33(1):42-46, 2011
8. Matsuu-Matsuyama M, Okaichi K, Shichijo K, Nakayama T, Nakashima M, Sekine I: Norepinephrine enhances radiosensitivity in rat ileal epithelial cells. *J Radiat Res* 52(3):369-373, 2011 (IF:2.007) *★

B 邦文

B-a

1. 井手圭一郎, 今泉俊信, 林 哲朗, 西村俊満, 岸川正大, 中島正洋: 体腔液中に見られた Primary effusion lymphoma を疑う悪性リンパ腫の1例. *日本臨床細胞学会九州連合会雑誌*第42号別刷 42:163-166, 2011
2. 荒木政人, 七島篤志, 飛永修一, 角田順久, 中島正洋, 永安 武: 稀な真の胆嚢癌肉腫の1切除例. *日本胆道学会雑誌* 25:214-219, 2011
3. 長寄寿矢, 小松英明, 柴田良仁, 山口広之, 中島正洋: ランブル鞭毛虫症に合併した胆嚢癌の1例. *日本消化器病学会雑誌* 108(2):275-279, 2011
4. カーン カレク, 北島道夫, 平木宏一, 藤下 晃, 石丸忠之, 中島正洋, 増崎英明: Toll-like receptor 4 (TLR4)を介した子宮内膜症の増殖における炎症ストレス反応のクロストーク. *子宮腺筋症・子宮内膜症における最新の動向* p70-76, 2011
5. カーン カレク, 北島道夫, 平木宏一, 藤下 晃, 石丸忠之, 中島正洋, 増崎英明: 子宮腺筋症において腺細胞が子宮筋層へ侵入するメカニズムに関する検討. *子宮腺筋症・子宮内膜症における最新の動向* p34-40, 2011
6. カーン カレク, 北島道夫, 平木宏一, 藤下 晃, 石丸忠之, 中島正洋, 増崎英明: 細菌混入仮説: 子宮内膜症におけるエンドトキシンと Toll-like receptor 4 (TLR4)の役割. *Progress in Medicine* p56-60, 2011

B-b

1. 及川将弘, 矢野 洋, 大坪竜太, 畑地登志子, 藏重智美, 三浦史郎, Mussazanova Zhanna, 七條和子, 中島正洋, 吉浦孝一郎, 永安 武: FFPE 標本を活用した高密度 DNA マイクロアレイによる癌ゲノムのアレイ CGH 解析. *日本外科学会雑誌* 112(1・2): 441, 2011
2. 金子賢一, 石丸幸太郎, 前田耕太郎, 高橋晴雄, 三浦史郎: 甲状腺濾胞上皮細胞由来神経内分泌癌の一例. *日本甲状腺外科学会学術集会* 44: 142, 2011

B-c

1. 岸川正大, 穴見正信, 三浦史郎: 病理・細胞診(I. 病理診断, II. 病理診断と日常検査業務, III. 細胞診の実際, IV. 遺伝子検査). (岡部紘明(監): 薬学生・薬剤師のための臨床検査・最新病態検査, 自然科学社, 東京, pp128-137, 所収) 2011

B-d

1. 中島正洋: 原爆症に関する調査研究 分担報告書 共同研究課題2: 原爆被爆者の免疫機能に関する研究 放射線誘発甲状腺がん発症機構解明にむけた基盤研究. 平成22年度厚生労働省委託事業原爆症調査研究事業報告書 pp33-43, 2011
2. 三浦史郎, 藏重智美, ムサジャノワジャンナ, 塚崎邦弘, 宮崎泰司, 中島正洋: 長崎原爆被爆者腫瘍組織バンク

ングの経過報告. 平成 23 年度特別経費 第 7 回広島大学・長崎大学連携研究事業カンファレンス 放射線災害医療の国際教育研究拠点確立に向けた機関連携事業報告書 pp43-45, 2011

3. 松田勝也, 三浦史郎, 蔵重智美, 鈴木啓司, 近藤久義, 増崎英明, 中島正洋: 53BP1-Ki67 蛍光二重染色法による子宮頸部高度異型性と上皮内癌の鑑別. 平成 23 年度特別経費 第 7 回広島大学・長崎大学連携研究事業カンファレンス 放射線災害医療の国際教育研究拠点確立に向けた機関連携事業報告書 pp35-38, 2011
4. 及川将弘, 吉浦孝一郎, 近藤久義, 三浦史郎, 永安 武, 中島正洋: FFPE 標本を使った全ゲノムコピー数解析の検討. 平成 23 年度特別経費 第 7 回広島大学・長崎大学連携研究事業カンファレンス 放射線災害医療の国際教育研究拠点確立に向けた機関連携事業報告書 pp31-34, 2011

学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
0	5	6	0	0	29

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
中島正洋・教授	評議員	日本病理学会
中島正洋・教授	評議員	日本内分泌病理学会
中島正洋・教授	非常勤研究員	(財)放射線影響研究所
中島正洋・教授	疫学部顧問	(財)放射線影響研究所
中島正洋・教授	原爆症に関する調査研究班班員	(財)日本公衆衛生協会
中島正洋・教授	幹事	日本臨床細胞学会長崎支部
中島正洋・教授	がん対策部会専門委員会(がん登録委員会)委員	長崎県保健医療対策協議会
中島正洋・教授	理事	(財)長崎原子爆弾被爆者対策協議会
中島正洋・教授	代議員	日本細胞診断学推進協会
七條和子・助教	評議員	日本実験潰瘍学会
七條和子・助教	評議員	日本薬理学会
七條和子・助教	評議員	日本自律神経学会
七條和子・助教	長崎原爆資料館運営協議会委員	長崎原爆資料館
三浦史郎・助教	HER2 病理エリアアドバイザー	中外製薬株式会社

競争的資金獲得状況(共同研究を含む)

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
中島正洋・教授	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 53BP1 核内フォーカスの普遍的腫瘍組織マーカーとしての意義解析
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 放射線誘発小児甲状腺がんの発生機序の解明
中島正洋・教授	日本公衆衛生協会	分担	原爆症に関する調査研究
中島正洋・教授	国立がん研究センター	分担	放射線への暴露による発がんの分子機構に関する研究
七條和子・助教	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 被爆者病理標本における残留放射能の検出と内部被曝の分子病態解明

三浦史郎・助教	日本学術振興会	代表	若手研究(B) 53BP1 核内フォーカスを用いた食道上皮内腫瘍における遺伝子不安定性の特徴解析
七條和子・助教	広島大学原爆放射線医科学研究所		原爆被爆者に関するプルトニウムと内部被曝の研究—その1

特 許

氏名・職	特 許 権 名 称	出願年月日	取得年月日	番号
七條和子・助教	皮膚熱傷治療剤および表皮再生促進剤	2007年 2月28日	出願中	特願 2007-049534
平川 宏・助教	癌転移の検出方法および検出キット	2010年 2月22日	出願中	特願 2010-036515

その他

非常勤講師

氏名・職	職 (担当科目)	関係機関名
中島正洋・教授	非常勤講師 (病理学)	長崎市医師会看護専門学校
七條和子・助教	非常勤講師 (病理学)	長崎女子短期大学
七條和子・助教	非常勤講師 (病理学)	こころ医療福祉専門学校
三浦史郎・助教	非常勤講師 (病理学)	こころ医療福祉専門学校
三浦史郎・助教	HER2 病理エリアアドバイザー	中外製薬株式会社

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
三浦史郎・助教	NHK スペシャル 封印された原爆報告書	NHK エンタープライズ	2011年 7月22日 (DVD化)	なぜ貴重な資料が、被爆者のために活かされることなく、長年、封印されていたのか？被爆から65年、初めて181冊の報告書全てを入手。調査に当たった関係者などへの取材から、その背後にある日米の知られざる思惑が浮かび上がった。
七條和子・助教	核兵器と原発は究極の暴力	長崎新聞	2011年 12月20日	ペトカウ効果が教える放射線には「しきい値」がないということ。また、長崎原爆について内部被曝も考えられた。これらは、原発を稼働させる意義にも影響を与えることとなる。